

介護職員自己評価表

2024年4月4日

事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム瀬々串
------	-------------------------

	正社員	非常勤社員
介護支援専門員	2人	
介護福祉士	8人	
実務者・初任者研修	3人	2人

※複数資格者含む

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	備考
前回の課題に関する改善	35.2%	33.0%	31.8%	0.0%	

前回の改善計画	
新型コロナは5類感染症となり、ご入居者はご家族様と直接面会ができるようになった。日中の活動機会は増えつつあるが、コロナ禍以前と比べると外出機会は少なく、施設での活動が多くを占めている。そこで、メリハリのある生活を目指して、意欲や興味を持ってもらえるケアをご入居者のペースを勘案して提供する計画とした。また、併設したデイサービスの営業時間外や店休日を活用して、ニューステップ等を用いたマシントレーニングによる機能訓練、広い空間を活用した集団体操により変化のある生活を目指した。一方、入居者の多くは、認知症はあるものの活動能力は高く、取り組むべきケアは多岐にわたり、スタッフにかかる負担は小さくない。スタッフが抱える課題を聞き取り、解消を図ることを目指した。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
生活上の役割として、食事の準備や簡単な片づけなどを用いて、ご入居者に生活における役割を意味付け、生活動作を用いた生活リハビリとして関わっているが、ペースに合わせた役割を、意欲をもって取り組んでもらうことは難しかった。一つひとつのケアに要する時間が増えて業務をタイトにしていた。ベテランスタッフであれば大きな影響はないものの、経験の少ないスタッフでは業務負担となり、スタッフが抱える課題解消が求められた。一方、家庭的な雰囲気を目指しているだけに、ひとつの困難ケースの発生がコミュニティ全体に悪影響を及ぼし、施設環境を壊す要素となっていた。困難ケースを発生し難くして、発生しても影響が少ないケアの構築と環境整備が必要であった。	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目(偏差値)	よくできている(60以上)	なんとかできている(50~59)	あまりできていない(40~49)	ほとんどできていない(39以下)	合計
SECTION 1 対象者の接し方や態度について	0.0%	75.0%	25.0%	0.0%	100%
SECTION 2 仕事上の態度について	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 3 食事について	37.5%	25.0%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 4 移乗や移動について	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100%
SECTION 5 排泄について	25.0%	37.5%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 6 入浴について	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100%
SECTION 7 着替えや整容について	50.0%	12.5%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 8 服薬について	50.0%	12.5%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 9 意思疎通について	37.5%	25.0%	37.5%	0.0%	100%
SECTION 10 行動障害について	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	100%
SECTION 11 普通の生活やアクティビティについて	37.5%	37.5%	25.0%	0.0%	100%

自己評価及び改善が必要な事項	
ご入居者の生活習慣を把握した生活リズムを踏まえたケアを提供し、入居者同士の関係性を踏まえて家庭的な雰囲気のあるコミュニティ形成に努めた。また、日々の行動を望ましい方向へ誘導する為に、併設のデイサービスで機能訓練や集団体操によるメリハリのある生活を提供し、可能な限り小グループのイベントとして、意欲や興味をもってもらえるケアと環境を目指した。ご入居者の多くは、認知機能の低下はあるものの、日中の活動量は維持され、身体機能や生活リズムは概ね確保された。一方、スタッフのメンタル負担は大きく、上席によるスーパービジョン、ベテランスタッフによるOJT等により抱える課題解消に努めたが、小さなコミュニティがゆえに関係性は深くなる傾向があった。ケアの仕方によりご入居者との関係を悪化させることもあり、認知症ケアを負担と感じるスタッフは一定程度みられた。ケースカンファレンスを通して困難ケースの影響を下げる取り組みを検討したが、ケアにおける課題を整理したうえで対応策を計画する必要があった。	
主任 小倉りさ	

外部評価者	
感染症対策から直接会えない面会が続きましたが、新型コロナウイルス5類移行を受けて直接面会ができるようになり、対象者と家族のつながりが深まっていることは喜ばしいことです。併設のデイサービススペースを活用した体操で暮らしに変化をもたせ、施設内のレクリエーションで活動量を増やすなど、コロナ禍以前の日常に戻りつつあると思えました。一方、外出機会は少なく、施設内の活動が多いことを問題視していましたが、興味や意欲を感じるケアを模索しながらメリハリのある生活を目指していることは評価できます。生活の質は向上しているようですので、外出により活動性を高めることは、無理をせず徐々に進めれば良いと思います。また、生活リハビリに食事の盛り付けを活用し、共有スペースの片づけ等を日常生活の役割として意味付け、対象者の特性を考慮した役割のある日常を提供していました。これらのペースは対象者ごとに異なり、ケアの時間が大幅に増えたことで、日常業務は煩雑でタイトになっていました。特に、経験の少ない若い介護職員では業務の負担感は大きく、抱えている業務負担の解消が課題となっていました。改善計画として、負担感のある職員にスーパービジョンや面談等を行っていましたが、プライベートに関係することも多く、課題解消とはいかないまでも寄り添い支えることに努めてください。総合的な評価は、対象者に適した支援が提供されていることが推察できました。今後も地域に根ざした事業所として頑張ってください。	
〒891-0141 鹿児島市谷山中央5丁目37番1302 特定非営利活動法人かごしま福祉開発研究所 博士(社会福祉学) 岩崎 房子	